

グローバル化と国際化

小宮 一 仁

国際化 (Internationalisation) という言葉は、第二次世界大戦末期の 1945 年にアメリカ合衆国、ソビエト連邦、イギリスの首脳の間で交わされたヤルタ協定において、日本が租借していた大連港を多国化する、複数の国が利用できるようにすることを表すために使われた「be internationalised」に由来すると言われていています。つまり、国際化とは、複数の国同士が相互に結びつきを強め、相互に共同して行動し、互いに経済的、文化的に影響をあたえあうことを示しています。

これに対して、グローバル化（Globalisation）は、国境を含め様々な境界や垣根が取り払われた全地球的な社会の到来を意味します。この考え方は、アメリカの哲学者である Oliver Leslie Reiser とカナダの健筆家 Blodwen Davies が、1944年の著書「世界的な民主主義（「PLANETARY DEMOCRACY」）において、科学的ヒューマニズムの根本は、グローバリズム（globalism）、即ち地球を一つの共同体と見なして思考することである、と示したことが最初であるとされています。

国際化とグローバル化という言葉はほぼ同じ時期に世に現れましたが、その後、国際化は急速に進展し、政治・経済・学問・芸術・スポーツ・工業・農業・ビジネス等のどれを見ても、今では複数の国が関わっていないものはないと言っても過言ではありません。そして、世界は今、大きなターニングポイントに差しかかっています。アジアやアフリカの新興国が競って成長を追い求める中で、これまで世界を動かしてきた先進国中心のシステムや秩序が根底から揺らぎ始めています。さらに、環境破壊、地球温暖化、感染症、食糧、エネルギー、格差問題等の課題はますます深刻になっており、

特定の国だけで解決することが不可能なレベルに達しています。今や、全地球が一致団結して持続可能な世界を構築していかなければならなくなりました。そこで、様々な垣根や境界が取り払われた、グローバル社会の実現が求められています。

科学技術の進歩によって、既にグローバル社会は現実のものになっています。人や物そしてお金が国を超えてダイナミックに動く社会が実現しています。将来は、地球上の全ての人を繋ぐ巨大なネットワークが構築され、様々な営みは世界中の人々を繋いで行われるようになるかも知れません。

国別に色分けされた世界地図の上で、世界中にいる人と人との間を全て直線で結ぶと、無限に近い数の多くの線によって地図上の物は全て塗り消されて、地図は一色の紙になります。線の色が白色ならば、世界地図は一枚の白い紙になるでしょう。白い紙を見ても感動はありません。しかし、この白い紙の真ん中に黒い墨を一滴落とすと、その墨の点と周りの白が共に際立って感動に変わります。私は、未来を生きる子供や若い人達には、将来、このような世界中の人々が繋がっ

たグローバル社会の中で、一つの際立つ点になって、全世界をも輝かせることができる個性溢れる仕事をして欲しいと思っています。

平成 30 年 3 月 22 日